

第2回富山市総合計画審議会「第2回 活力・交流部会」 議事録

日時：2015年11月18日（水）10:00～12:00

場所：富山市役所 302 会議室

出席者：（順不同）

長尾治明	富山国際大学現代社会学部現代社会学科教授（部会長）
宇津孝志	富山市美術作家連合会会長
鶴殿裕	株式会社日本政策投資銀行富山事務所所長
太田勝久	富山公共職業安定所所長
桑山比呂志	日本労働組合総連合会富山県連合会富山地域協議会議長
酒井富夫	富山大学極東地域研究センター教授
平井丈夫	大山地域自治振興会連合会会長
渡辺孝子	公募委員

企画管理部	今本部長、上谷次長、西田次長、酒井参事、清水主幹
都市整備部	高森次長
商工労働部	太田次長
農林水産部	蛭谷次長、篇原次長
教育委員会	奥村次長
大山総合行政センター	森井次長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 第2次富山市総合計画基本構想（素案）について

○資料「第2次富山市総合計画基本構想（素案）」に基づき事務局より説明。

部会長

- ・ 第1回には様々な角度からご意見をいただいた。主なご意見について紹介する。
 - レジリエンスについて、特に中山間地域の農業や零細企業について考えていく必要がある
 - 現状と課題、構想がどのようにつながっているのか分かりにくい
 - 零細企業についてももう少し内容を濃くしてはどうか
 - 実践的な教育に関して考えていくべきではないか
 - まちづくりの方向性としては、団子と串の状況についてわかりやすく説明していく必要がある
 - 旧富山市以外の計画についてはどうなっているのか
 - 行政サービスの限界についてももしっかり書き留めておく必要がある
 - 文化芸術分野の重要な柱として、ふるさと教育の必要性を認識していく必要がある

- ▶ 港湾、物流、中心市街地の買い物場所についても、検討課題として取り上げていくべき
- ▶ ICカードのあり方について
- ・ 本日も素案について活発なご議論をお願いしたい。

委員

- ・ カタカナが多い。レジリエンスやシビックプライド、シティプロモーション等、丁寧に注を付けていただきたい。
- ・ 富山市をどのようにアピールしていくかを考えると、「富山市の農村像」を打ち出してはどうだろうか。自然と都市が一体となったところが富山市のよいところであり、魅力だと思う。
- ・ ヨーロッパでは農村の価値について注目が集まっているようだ。イギリスでは農村の地価も相当に上がっているらしい。パソコンさえあれば農村でも仕事ができる。街の近くに農村があり、広い土地もある。こうした強みをアピールできれば、富山市全体の価値も上がっていくのではないかな。
- ・ 富山市民自らが農村の必要性和価値を認識しなければならない。
- ・ 「わが国を取り巻く状況 ⑥価値観や行動様式の多様化」があるが、こうしたライフスタイルの多様化については様々なところで指摘されている。富山市では農村部のライフスタイルも大きく変わってきている。専業農家が減る中で、多様な仕事を担いながら農村で生活していくということも考えられるかもしれない。

部会長

- ・ 農村では新しい動きも出てきている。6次産業化や農家民宿の事例も出てきている。今日的な動きをとらえていただければと思う。

委員

- ・ 高山線にはたくさんの外国人が乗車している。外国人も農村に行って様々な体験をしたいということのようだ。こうした動きについてもとらえておく必要がある。

部会長

- ・ グリーンツーリズム的な観点も必要だろう。

委員

- ・ 今のご意見に反対するわけではないが、農村を打ち出しすぎると都市と農村が分離してしまうのではないかな。富山市の地方版総合戦略に「富山の自然を楽しむ」という項目があったと思うが、そうした部分を咀嚼し、総合計画にも取り入れてはどうか。都市と農村が混在していることが魅力的なのだと思う。

委員

- ・ 都市と農村が対立するのではなく、農村を楽しめるまちづくり、まちを楽しめる農村づくりでもよいが、相互の交流についても取り入れられるとよい。

委員

- ・ 主要課題や施策のつながりについて整理いただいたが、基本構想の中心には基本理念があるはずなので、基本理念も含めた整理としてはどうか。基本理念に向かい、それぞれの要素がどのようにつながっていくのかが分かるとよい。コンパクトシティ施策のらせん図が参考になるかもしれない。

委員

- ・ 市民ワークショップの報告書があるが、旧富山市からの参加者が多いように思う。旧婦中町、旧大

沢野町の他に旧山田村や旧大山町でのワークショップ開催は検討しなかったのか。

- ・ また、基本構想には市民の声がどのように反映されているのか。

部会長

- ・ これから細かな実施計画について検討していくことになるが、市民の声は計画の段階で反映されていくことになるのではないかと。

事務局

- 旧婦中町や旧山田村以外でもワークショップの場を設けたが、応募が少なく開催に至らなかった。但し、今回開催したワークショップのメンバーには、合併した旧町村部の全てのエリアから参加があった。中には県外から参加している学生もおり、多様な方々に検討いただくことができた。

委員

- ・ 国では女性の活躍推進を大きく掲げているが、基本構想の中にはあまり女性に関する文章が出てきていない。基本構想の段階でどれだけ入れ込めるのかというと難しいかもしれないが、検討してはどうか。

事務局

- 調整部会で検討させていただければと思う。

委員

- ・ 「主要課題 ⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造」について、富山県は石川県と比較して“シビックコンプレックス”を持っているように感じている。富山市の文化とは、新しいものを創り出す文化である。富山市にはガラス、原信夫さんをはじめとするジャズ文化もある。
- ・ 「主要課題 ⑦産業活力の強化」にも関連するが、富山市では売薬があらゆる文化の中心になっている。北陸銀行や北陸電力も、売薬さんの資本が元になったと聞いている。また、有峰ダムは黒部ダムを超える貯水量を誇るダムである。ダムができて川の氾濫もなくなり、飲料水も確保できるようになった。そうした事実を市民自身が知らないのではないかと。
- ・ 飲料水にしてもそうだが、市民向けにも強くアピールしていく必要がある。

部会長

- ・ 産業観光や現代産業の起源も、元はと言えば売薬である。こうした事実は知っているようではなかなか知らない学生も多い。ジャズもあり、ガラス産業もある。新しい文化と富山市の成り立ちに売薬がどのように関わっているのか、若い人にも伝えていき、シビックプライドの醸成につなげていくということが重要だろう。

委員

- ・ 他県と比べ、富山市自体には古い伝統文化はない。だが、他と違うものを創り出すことに富山市の魅力があると考えている。そうした魅力を打ち出せるとよい。
- ・ ガラス美術館ができ、観光面でも期待ができる。ガラス工房でも素晴らしい人材が育ってきているが、どういう人が育っているのか市民に伝わっていない。人材を育てて送り出すことも富山市の特徴・文化である。
- ・ 「わが国を取り巻く状況」から芸術・文化の文言が消えてしまって悲しい。もう少しやわらかな言葉や文章になるとよいのではないかと。

部会長

- ・ 新しいものを創り、育成していくことが重要だろう。ガラス工房での動きも富山の魅力につながっている。

委員

- ・ 新たな文化の創造が強調されているが、伝統文化を継承しつつ、交流人口の受入体制も整備していくのか。
- ・ 「都市構造 ②将来都市構造」では、利便性の高い路線への居住推進について書かれているが、利便性の悪い地域についてはどうなるのか。

事務局

- 文化については、「主要課題 ⑨伝統文化の継承と新たな文化の創造」でも書いているが、古いものを切り捨てるのではなく、地域に今ある文化を次の世代にいかにつなげていくかが重要だと考えている。よいものを残しつつ、新しい文化も創っていくという思いを持っており、取捨選択という意味ではない。

事務局

- 将来都市構造についてお答えする。富山駅を中心に鉄軌道、バス路線が整備されているが、全ての路線の利便性が高いわけではない。特に利便性が高い13路線を都市軸として、その周辺に集約を図っていく。これ以上居住や都市機能を拡散させていかないことが重要だと考えている。都市軸以外の地域については、コミュニティバスなどとも連携しながら現状の維持を図っていきたいと考えている。

委員

- ・ そのような構想があるならば構わないが、人口減少と過疎化が進むとコミュニティバスなどの便数も減らされてしまう。
- ・ 産業振興に向けては新たな企業誘致も必要だろうが、高校や大学を卒業後県外に転出し、そのまま戻ってこない人も多い。若者には都会への憧れもあり、なかなか難しいのかもしれないが、若者の希望かもしれないが、地元産業の魅力をアピールすることが重要ではないか。

事務局

- 富山県全体として進学率が非常に高い。一方で、県内に大学が少なく、高校卒業後県外に出る人がほとんどである。卒業後戻ってこられるかどうか重要だと考えている。

委員

- ・ 富山県知事も、県立大学に所属する学生の県内就職率を上げたいと話していた。

事務局

- 富山県に魅力的な企業があることを学生が知らないという問題に対しては、大学側も危機感を持っている。最近では文部科学省のCOC+の一環で、県内就職率を上げる取り組みも始まっている。行政・大学が一体となって取り組んでいくことが重要だろう。

事務局

- 都市の活性化のためには雇用が重要である。既存企業を支援して雇用を増やすだけでなく、新規企業の誘致も重要となる。ハローワークなどとも連携しながら雇用の確保に向けて取り組んでいきたいと考えている。

- 県外の大学に進学し、卒業後に戻ってくる割合は57%だというデータもある。

部会長

- ・ COC+については富山大学が中心となり、県内の様々な大学・自治体と連携して「オール富山」で取り組んでいくものである。文部科学省より認定を受け、今後5年間助成を受けることが決まっている。この事業の目的の一つは県内就職率を上げることであり、地元企業への就職率を5年間で10%上げることを数値目標としている。
- ・ 県内就職率を上げるためには、地元でどんな魅力的な企業があるのか、学生に理解してもらうことが重要である。企業経営者を大学に招き、直接学生に訴えることも有効だろう。
- ・ COC+の取り組みは、これから具体的な動きを始める。富山大学や富山県立大学には県外からの進学も多い。地元出身者だけでなく、県外から進学してきた学生も、富山県で定着するようになるとうい。

委員

- ・ 最近では就職が決まる時期が早い。地元に戻る人もいるが、名古屋近辺に留まり働く人も多い。極端な例だが、石川県の奥能登では学生全員が高校卒業後転出し、一人も帰ってこないという大変な状況になっているようだ。
- ・ 奥能登では農業等の分野では若者が戻ってくる例もあるらしい。農業の経営者が地域に貢献していることがよく見えており、そうした活動を見て若者が戻ってきているようだ。産業だけでなく、コミュニティの存在が地域に戻る条件の一つになっているのではないか。
- ・ 富山市は地元にも企業があり、そういう意味では恵まれている。今後、取り組みを進めていければと思う。

委員

- ・ 地域のことをあまりよく知らないということが議論のベースにあるのだろう。順番にあまり意味はないと思うが、「主要課題 ⑪シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成」を1番最初に掲げてはどうか。

部会長

- ・ 「主要課題 ⑧観光の受入体制の整備」については具体的にはどういったことを考えておられるのか。看板などを整備するということか。

事務局

- ホテルを含めた整備など、ハードの面もあるだろうが、いわゆるおもてなしのようなソフト面の整備も必要だと考えている。どのような整備が必要かについてはご意見を伺いたいところだが、富山市民はあまりおもてなしが上手ではないと感じており、ハードとソフトの双方からの取り組みが必要だと考えている。

部会長

- ・ 産業やビジネスの視点で観光を考えることも重要である。ビジネスにならなければ一時のにぎわいで終わってしまう可能性があるし、地域の活性化にもつながっていかない。案内表示などのインフラ整備も重要だが、持続的な取り組みとしていくためには、観光をビジネスとして成り立たせていく必要性を認識しておくことが重要ではないか。

委員

- ・ 文化的なテーマで国際大会を開催してはどうか。国際大会があれば注目が集まり、ガラス産業などへの認識も高まると考えられる。既存の美術館なども活用し、富山市中心部で人が集まるようなイベントができるとよい。

部会長

- ・ 周辺部で開催されているイベントなどは認知されにくいようにも思う。中心市街地でイベントを開催すれば、より多くの人を呼び込むこともできるかもしれない。
- ・ 「わが国を取り巻く状況」には「グローバル化の進展」についても記載されている。国際大会の開催などを通じて美術への関心を高めていくということは重要な視点だろう。

委員

- ・ 「わがまち富山」や「富山らしさ」、「富山」と言った時に、富山市の人は富山市を想像するだろうが、富山市以外の人は富山県をイメージしてしまう。もっとはっきりと「富山市」を打ち出せるとよいのではないか。

委員

- ・ 富山市では、親せきや家族、知り合いを通じて野菜をもらうことができるため、東京のような生協のシステムが必要ではない。こうしたことは大都市に住む人からすると、非常に羨ましい話だと思う。消費者と生産者との結びつきはマイナスのようにとらえられてきたが、むしろプラスの魅力として打ち出していけるのではないか。アメリカでも CSA (Community Supported Agriculture) という消費者参加型農業が進められている。農村型の地方都市として、富山市をアピールしていけるとよい。
- ・ CSA のような取り組みも、ただ体験するだけでは一過性で終わってしまうため、生活に結びついた形でできるとよい。TPP 合意が実現されれば、ますますそうした問題が顕在化するのではないか。

部会長

- ・ 地元で獲れた新鮮な野菜を消費者が買うことができる。まさに地産地消ということだろう。全てを流通システムに乗せるのではなく、本当に食べたかったら地元に来なさいという考え方もできる。
- ・ 新幹線の開業により、市内の人も県外に行きやすくなっている。県外で様々な経験をすると、市民も富山を味わう心が分かるかもしれない。

委員

- ・ 富山市と富山県のどちらを指すかという問題は、富山市は県都であり、あまり気にしなくてもよいのではないかと思う。議論は富山らしさに集約されると思うが、やはり「主要課題 ⑩シティプロモーションの推進とシビックプライドの醸成」が重要なのではないか。
- ・ 個人的には、観光の取り組みにはあまり関心がない。飛騨高山にも、外国人が来始めた当初は受入体制も何も整備されていなかった。何か魅力的なものがあれば、人は来る。おもてなしについても、パリのフランス人も優しいわけではない。住民が生き生きとしていればよいのではないだろうか。
- ・ 市民ワークショップの中では「優しい」ということがキーワードになっており、おもしろいと思った。

部会長

- ・ 県外での生活が長い人から見ると、富山市民は優しいと感じることが多いかもしれない。

委員

- ・ 富山の魚はおいしいと言われているが、実際においしいのは氷見市の魚であり、富山の魚＝富山市の魚ではない。例えば高岡市の「高岡らしさ」は分かりやすい。「富山らしさ」は県都ということもあり、ピン트가少しずれてしまうという印象がある。

部会長

- ・ 富山市と言えば一般の人は何を連想されるのか。

委員

- ・ 白エビは富山市、カニは魚津と、同じ富山県でもおいしい魚は港によって異なり、バラエティに富んでいる。富山全体でおいしいということではよいのではないか。
- ・ 新幹線開業後、金沢市では観光客が爆発的に増えているが、ストロー効果も懸念される。ストロー効果に関連して富山市ではどのような影響が出ているのか。黒部市では本社機能を移すといった話も出ているようだ。

委員

- ・ ストロー効果についてだが、北陸新幹線開業後はっきりと見られる影響はないとあってよいと思う。

委員

- ・ 市民ワークショップの意見を見ていると、市民自ら何かに取り組むという視点があってもよいのではないか。現在は主要課題にそうした内容は盛り込まれていないが、市民が主体的に動くためのサポートをしていくという視点があるとよい。
- ・ 行財政、予算の問題もあるだろうが、必要な活動であれば進めていく必要がある。

部会長

- ・ 市民の自発的な活動についてご意見をいただいた。特に福祉や観光の分野では、市民へのサポートは重要なポイントになるのではないかと。地域での起業・コミュニティビジネスもそうしたサポートがなければ生まれてこない。いかに市民の活動の芽を育てていくか、情報収集も含めて体制づくりに取り組んでいく必要があるのではないかと。

委員

- ・ 石川県の奥能登では、「春蘭の里」という農家民宿の取り組みが行われている。農家民宿単体では大人数を受け入れられないため、農家民宿を束ねる組織が修学旅行の受け入れ、民宿のサポートなどを行っている。こうした民宿も、サポートする組織があってはじめて成り立っている。
- ・ 県外からの移住者が古民家を改装し、民宿を開くという新しい動きも起こっているようだ。地域の活性化にどの程度つながるのかは分からないが、事業に結びついていくこうした取り組みは重要だろう。

部会長

- ・ マネジメントを担う人材や組織が必要ということだろう。最近では、昔のように生産者と消費者の垣根がなくなっている。消費者でありながら、生産に参加する人もいる。最初は小さなビジネスかもしれないが、主体的な取り組みを支援していく組織づくりが必要だろう。
- ・ 地域の中でコミュニティビジネスをどう育てていくかは、重要な課題だと思う。

事務局

- 今回いただいたご意見を踏まえ、素案を修正させていただく。最終的には調整部会でとりまとめをさせていただき、3月の審議会全体会議でご報告させていただければと思う。

(以上)